

加 佐

学校だより 1月号
令和7年1月8日
舞鶴市立加佐中学校



<https://kasa-maizuru.edumap.jp/>



応援を力にかけて

あけましておめでとうございます。よいお正月が過ごせましたでしょうか。本年もどうぞよろしく願います。お祝い気分も一旦リセット！ 通常モードに戻して3学期のスタートです。

年末年始の（私の）感動シーンをお伝えして、学校とか青春とか子どもの成長とか・・・様々感じたことを少し（たくさん！）。

全国高校駅伝で男子2位になった福岡県代表：大牟田高校。4位でタスキをうけた4区の選手が沿道からの応援に何度もガッツポーズで応えながら笑顔で好走しました。高校駅伝に限らず、インターハイを目指す高校スポーツの指導現場には、長年の指導実践の積み上げが多くあり、そこでしのぎを削る高校生からは、なんだか「修行僧」のような佇まいを感じます。スタート早々から沿道の応援にガッツポーズをしていたら「よそ見すな！集中しろ！」なんて言われそうなものですよね。私も一瞬そう思ったのですが、彼の表情がガッツポーズの度に凛々しく逞しく、頼もしくなっていくのを感じたのです。並走した仙台育英とともに先頭を猛追し、区間賞の走りで後続の選手に力を与えました。古豪復活を印象づける準優勝でした。4区を走った野田顕臣（のだ けんしん）選手が気になって、ニュース記事を追ってみたら、「応援は力になるし感謝の気持ちを伝えたかった。きつかったが、走りを通じて勇気や感動を与えたかった」とコメントしています。並走した仙台育英の選手にたいして「『まだ自分は余力があるんだぞ』とプレッシャーをかけたい思いもあった」、「表情だけでも絶対に勝つてやるという思いで走った」と堂々とした振舞い。この場面を指導者コーチは「ものすごく良い走りだった。ちょっと手を上げすぎでしたけどね」と苦笑いしつつ、「あの手の上げ方は調子が良い証拠。頼もしかった。大牟田では昔から『応援に応えるぐらいの余裕がなきゃダメだ』と指導してきた」と彼の健闘を讃えています。

ご想像のとおり、強豪校といわれるチームは、全国から選りすぐられて寮生活で寝食を共にします。こと更に長距離種目はその特性上、「100日苦しくて1日だけうれしい」ってなスポーツですから、些細な場面で「しんどいムード」が広まり始めると、チーム全体がしんどくなっちゃうんです。彼の清々しい表情は、チーム内で「顕臣スマイル」と呼ばれているそうで、ムードメーカーなのでしょうね。ノリや勢いだけで勝てる訳もなく、日頃の練習が明るく充実していることが、このワンシーンから伝わってきて、大牟田の練習を見に行きたくなりました。

ランニングはプリミティブなスポーツですから、練習内容はそんなに大きな違いはないとして、大雑把にいうと「たくさん走れば強くなる」のです。でも「たくさん走ること」がとっても大変だからこそ、チームの「集団づくり」が大きく影響します。指導者はしんどい課題を与え、選手を鍛えたい。選手が同じ気持ちで練習に取り組まないと、悪く見れば「やらされている感覚」でいると、この雰囲気ของทีมにはならなかったでしょう。「学校も学級もこんな雰囲気が作れたらいいなあ」と思いが巡りました。

結果や記録のその裏側には必ずキーポイントがあって、練習内容とかトレーニング方法もそうですけど、実は毎日の生活の中に大切なものがあるんじゃないか？と思うんです。

学校も点数や成績は確かに大事だけど、その裏側の「何か？」を探しています。

（分かっていない訳ではないですけど、ページが足りませんので、また今度！^^）